

マナーキッズテニスの楽しみ方・教え方

PART.1

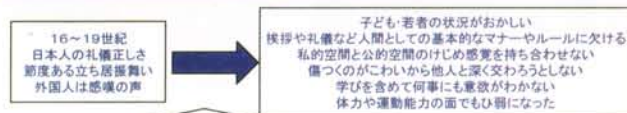
入門編

田中 日出男

財日本テニス協会マナーキッズプロジェクトディレクター



マナーキッズ® プロジェクトの狙い



礼儀正しさのDNAは残っているはず
今がラストチャンス
指導者がその氣になれば子供は必ず変わる

マナーキッズ® プロジェクト

スポーツ・文化など各種活動を通じて、日本の伝統的な礼法を体験させる
小笠原流礼法鈴木万亀子総師範との提携・協力関係

挨拶・礼儀作法などの
マナーを習得する

体力・運動能力の向上

知的能力の向上

「体」「徳」「知」のバランスの取れた人材育成

地域社会あるいは国際社会の中で市民として生きていく力を
個人レベル(主体性・自律性)。
対人関係レベル(自己と他者との関係)。
文化・社会レベル(個人と社会の関係)。
いずれの面においてもきちんと身につけさせる

マナーキッズ教室の開催

幼稚園・小学校
総合型地域スポーツクラブ
スポーツ少年団他

表「マナーキッズ教室」と「いじめ」

マナーキッズ教室が 大切にしている事	「いじめ」のある集団
約束を守る	みんなで決めた約束・ルールが守れない集団
話をしっかりと聞く	話をしっかりと聞けない、指導者の指示が通らない集団
挨拶をする	挨拶の明るない声か響かない、悪い表情の子が多い集団
挨拶束をする	教室が乱雑で、自分たちがしたことの挨拶束(責任)がとれない集団

図 マナーキッズプロジェクトの趣旨

「マナーキッズテニスプロジェクト」とは
子ども・若者の状況がおかしい。多くの人がそう感じ
るようになって、ずいぶん時間がたっています。「あいさ
つや礼儀など、人間としての基本的なマナーやルールに
欠ける」「私的空間と公的空間のけじめ感覚を持ち合
わせない」「傷つくのが怖いから他人と深く交わろうと
しない」「学びを含めて何事にも意欲がわかない」「体力や
運動能力の面でもひ弱になった」。そんな子どもが増え
つつあることをさまざまなデータは示しています。
財日本テニス協会「マナーキッズテニスプロジェ
クト」は、前述のような子ども・若者の状況是正に向けて、
その一助になることを目的にしています。
具体的には、子どもたちが、地域社会あるいは国際社
会の中で市民として生きていく力を、個人レベル(主体
性・自律性)、対人関係レベル(自己と他者との関係)、
文化・社会レベル(個人と社会との関係)のいずれの面
においてもきちんと身につけさせることを目指す。併
せて、体力・運動能力および知的能力の向上を図り、「体」
「徳」「知」のバランスの取れた人材育成に寄与してい
きたいと考えています。
財日本テニス協会では、平成17年4月から、子どもテ
ニスのプロモーション活動として、「幼稚園・小学校マ
ナーキッズテニスプロジェクト」を、文部科学省、NH
K、読売新聞社のご後援、小笠原流礼法鈴木万亀子総師
範のご協力、企業のご協賛(平成19年4月1日現在、特



マナーキッズテニス大使ウィンブルドン派遣風景

別協賛4社、協賛22社、並びに多くの法人・個人の皆
さま方のは支援を得て、全国30か所で開催。今まで
に約1万人の幼稚園・小学生児童の参加がありまし
た。
併せて、マナーキッズテニス全国小学生団体戦を2年
間にわたって開催し(18年度から文部科学大臣杯交付、
テニスの成績、マナー・ルールの順守度、感想文の内容、
体力・運動能力テストの結果を総合評価して、1大会8
人以内の小学生を「マナーキッズテニス大使」として、
イギリス・ウィンブルドンに派遣。現地で国際交流活動
を行っています(18年度分は、今年6月に派遣)。
マナーキッズテニス教室(ショートテニスによる)の
実際の仕方は次号で、紹介しますが、各地の小学校など
の反応は極めて良好で、例えば「あいさつをする子が増
えた」「子どもをプラス方向に変える力を持っている」
「いじめを減らす効果が期待できそう」といった内容
の報告が寄せられています(42頁の図参照)。
東京都杉並区立三谷小学校では、全校生徒のマナーキ
ッズテニス教室受講を契機に、全校を挙げて「あいさつ
プロジェクト」が始まり、結果、児童の「以前からあい
さつをしている」割合が36%、「よくするようになった」
「少しするようになった」割合が54%と、合計で90%に
達し、成果を上げていると報告されています。
また、青森県八戸市立新井田小学校では、表のように
「マナーキッズ」と「いじめ」の相関、「礼儀・マナー」
の押し付けではなく、テニスという楽しい運動の中で



修了証書の授与（目を見てお礼のあいさつ）

マナーキッズテニスの楽しみ方・教え方

PART.2

実践編

田中 日出男

財団法人日本テニス協会マナーキッズテニスプロジェクトディレクター

マナーキッズテニスプログラムの指導の仕方

マナーキッズテニス教室は、ショートテニスの技術習得に加え、あいさつ、礼儀作法の基本的マナーの習得、スポーツマンシップの体得を目的にしています。

次の諸点に留意して、「指導」ください。

◎受付

受付は、保護者が子どもを連れて行おうとすることがありますが、必ず、受講生が行うように指導していただきます。

受講生には、「おはようございます」、「名前」、「よろしく願います」の要領で行わせていただきます。

◎開講式

1. 整列、全体のあいさつ

2. 受講生自己紹介

① 一歩前へ出る、② 正しくお辞儀をする、③ 正しい姿勢をつくる、④ 腹の底から大きな声で「学校名」、「氏名」、「よろしく願います」と自己紹介をします。

3. 鈴木万寿子総師範（小笠原流北法常任理事・本邸教授）による正しいお辞儀の仕方、あいさつの仕方の実技指導（指導者、保護者と一緒に）。
「マナーとは」

約束・ルールを守る。人のいやがることをしない。あいさつは「心と心を結ぶリボンです」。相手は「ほめるよい」。「つらいこと」は「ふが大切」です。



マナーキッズテニス教室小学校体育授業風景（福岡県遠賀郡岡垣町立海老津小学校）

財団法人日本テニス協会普及本部 「マナーキッズテニスプロジェクト」

〒150-8050
東京都渋谷区神南1丁目1番1号
岸記念体育会館内
TEL 03-3481-2321
携帯 080-6646-4797
FAX 03-3467-5192
E (-) mail kidstennis@jta-tennis.or.jp
日本テニス協会ホームページ
<http://www.jta-tennis.or.jp/kidstennis/>



「礼儀・マナー」を自然と会得できるというプログラムが組み込まれていると報告されています。

以上のような実績・効果などから、マナーキッズプロジェクトの趣旨・内容を、独りテニスだけではなく、スポーツの種目を超え、あるいはスポーツ以外の子ども活動団体等とも連携・協力して広く共有し、全面的に活動していきたく考えています。そのため、「マナーキッズプロジェクト」（「マナーキッズ」で商標登録を取得）という名称でNPO法人の設立を申請中です。

全国の体育指導委員の皆さん、我が国の次代を担う子どもたちのために、幼稚園・小学校、総合型クラブ、スポーツ少年団等に「マナーキッズプロジェクト」採用の呼びかけや、指導者として「マナーキッズプロジェクト」のご支援をお願いします。



一人で受付

「正しく立つ」「正しいお辞儀」の指導

① 正しい姿勢を保ったまま、頭、背筋、腰を一直線になるようにして、上体を腰から倒す、② 横に下ろしている手が、腹の前でハの字になるくらいまで身体を倒す、③ 「よろしく願います」、「ありがとうございます」と言ってから、お辞儀をするのが正しいあいさつです。頭を下げるのではなく、心を下げる・残心（あいさつが終わってから相手の目を見ること）が大切です。

◎バレーボール

1. キャッチボール、ラケットでボールを弾ませる、仲間にもボールを転がして送る、ボレー、ストローク、スマッシュ、サーブの順で指導していただきます。

(2) の部分は「ナイスショット」、「ごまじ」、「上手」とほめてあげてください。ふだけた態度、約束（待っているときはラケットを「たて」して待つ等）、ルールを守らない場合は注意、というメリハリのついた指導



後片付けを全員で行う



試合が終われば勝っても負けても笑顔で握手



田辺正コーチ(元デビスカップ出場選手)によるボレーの指導



自己紹介



ラケットを「だっこ」して待つという「約束を守る」

財団法人日本テニス協会管及本部
「マナーキッズテニスプロジェクト」

〒150-8050
東京都渋谷区神南1丁目1番1号
岸記念体育会館内
TEL 03-3481-2321
携帯 080-6646-4797 (田中)
FAX 03-3467-5192
E-mail kidstennis@jta-tennis.or.jp
日本テニス協会ホームページ
<http://www.jta-tennis.or.jp/kidstennis/>



ラリーが何本続いたかの報告と次の目標設定
「家庭内の様子」



鈴木総師範による保護者向け講演・
「家庭内の様子」

をしてください。

- (2) ラリーを何球続けられるかという練習では、始めは達成可能な目標をコートごとに提示し、達成したらコーチと握手し、報告をさせてください。後は、個人ごとに目標を自己申告させ、達成すれば、また、握手し、報告をさせてください。自分で目標を設定しているの、挑戦意識が強く、目の色を変えて取り組みます。
- (3) 試合終了後は、勝っても負けても笑顔で握手をさせてください。

(4) 後片付け、整理体操

保護者は、別室で講演会・鈴木万壽子総師範「家庭内の様子」・筑波大学大森藤准教授「幼児期の言語発達に及ぼす模倣運動の影響」を聴講します。

●開講式

1. 修了証書授与

一人ずつ氏名を読み上げられたら、大きな声で返事をし、走って中央へ。会釈をし、コーチから授与される際には、相手の目をみて「ありがとうございます」を言わせてください。

2. 感想文提出依頼

感想文提出の目的説明をし、運動で疲れた後も勉強する習慣作り、文武両道の大切さを教えます。次の課題の中から一つを選び、その日の内に提出させてください。「スポーツ三つの宝」(小泉信三氏)

「この一球」(球趣)「本気な人間になれ」(福田雅之助氏) マナーキッズテニス大使ワイルド・派若・佐藤次郎

(群馬県渋川市立長尾小学校道徳教材)

3. お礼のあいさつ

「感謝」の気持ちで「ありがとうございます」を、最初は保護者に、次に、指導者、お世話役、協賛企業をはじめとして、本プロジェクトを支援いただいたという皆様方に対して行わせてください。

以上の内容で行うことにより、始めは、声が小さく、身体はグニャグニャしていたのが、修了証書をもらう頃には、声も大きく出るようになり、姿勢も背筋が伸びて、見違えるほど良くなります。子どもたちは、教えられるとあんなに喜んでくれます。

福岡県田川郡川崎町立真崎小学校から、マナーキッズテニス教室を受講した4年生が、2年生を指導しているとの嬉しい便りが寄せられました。

また、保護者からも、講演会等を通じて、日頃の子どもとの接し方を反省するきっかけになり、翌日から子どもに対する接し方を改めたという感想が寄せられています。

「マナーキッズプロジェクト」は、全国の幼稚園・小学生に対し、スポーツを通じて、日本の伝統的な礼法を体験させることにより、あいさつ、礼儀作法の基本的マナーの習得、体力・運動能力および知的能力の向上を図り、「体」、「徳」、「知」のバランスの取れた、世界に通用する背骨ある人材育成に寄与することを目的としています。体指の皆さんのご支援・ご協力をお願いします。